

会 議 録

公開・非公開 の別	〈開催日〉平成28年11月15日（火） 〈時 間〉16:00～18:10 〈場 所〉岸和田市役所 新館4階 第1委員会室	〈傍聴人数〉5人 〈傍 聴 室〉 岸和田市役所 新館4階 第1委員会室
公開		

〈 名称 〉 平成28年度第1回 岸和田市公共施設マネジメント検討委員会

〈 出席委員 〉

○は出席、■は欠席

足立委員	和田委員	伊坂委員	江口委員	田中委員	萩原委員	七野委員
○	○	○	○	○	○	○

〈 事務局 〉 総務部長：山内部長

公共施設マネジメント課：花田課長、岸本主幹、上田担当長、森田主査、玉井担当

〈 議 事 〉

1. これまでの経緯と今後の取組みについて
2. 計画の進行管理について
3. 15圏域の再配置検討について
4. その他

〈 会議の概要 〉

● 市長から委員委嘱

市 長：（あいさつ）

本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。また、この公共施設マネジメント検討委員会の委員を快くお引き受けいただき、重ねてお礼申し上げます。

まずは、今回の委員会を開催するに至った背景としまして、平成26年の7月に足立先生を委員長とした「岸和田市公共施設マネジメント検討委員会」を設置し、保有する公共施設の今後のあり方について2年間の議論ののち、提言をいただきました。これを受けて私どもは、平成28年3月に公共施設最適化計画を策定いたしました。今後はこの計画に基づき、効果的かつ着実に推進し、絶えず計画の進行管理を行う必要があります。

しかしながら、公共施設を取り巻く環境は右肩上がりの時代に比べ、大きく変化しております。少子高齢化や、人口減少社会の到来、市民ニーズの多様化、さらには防災機能の必要性、また、厳しい財政事情などを踏まえた施設のあり方が求められております。こうした状況から、これからの公共施設は、市民サービスの維持や向上を前提としたうえで、既存施設の有効活用を図ることが必要となります。

また、維持管理費の節減、適切な使用料収入の確保など、運営面も含めた効率化も求められることとなります。それを踏まえ、本市は個別の施設ごとにどのようにしていくか具体的な話に入っていきます。そうなれば様々な意見もあり、反対意見も多いかと思えます。その中で委員の皆さまにはお力添えをいただきながら、ご意見やご批判も頂戴し、課題の解決策について継続的な審議を行い、本市の方針をしっかりと導き出していきたいと考えております。

一筋縄ではいかない大変大きな課題ではありますが、我々の世代が頑張っていかなければ次の世代に繋げられないということになります。しっかりと次の世代のことを考え、どれだけ本気になって取り組めるかということを、私も市長として肝に銘じながら、皆さまとともに、この先の岸和田市をぜひ一緒に考えていければと思います。本日から2年間お世話になりますが、是非ともよろしくお願い申し上げます。

- 事務局の提案後、委員の互選により委員長に足立委員、副委員長に和田委員がそれぞれ選出
 - 市長から委員会へ諮問
 - 全委員出席により委員会の成立を確認
- 議事①「これまでの経緯と今後の取組みについて」
資料 1 ～ 2 に基づき事務局から説明

委員長：最適化計画については、2年にわたって会議を行い、各委員には活発な議論をいただき策定された。従前の縦割りから横断的に考え、圏域のニーズに施設が役立っているのか、といった再編も考えて最適化計画は作られている。最適化計画は、あくまで計画であり、これから具体化していくことになる。前回、進捗状況を年に1回でも良いから確認していこうという話だったので、本日その第1回目を迎えることができた。市民の為に、本委員会はもちろんのこと、事務局及び市内は、まずできることを再編、最適化して進めていただきたい。

委員：委員長から前回迄の取組みについて説明いただいたが、非常に充実した策定期間だった。全般にわたり市の意気込みを感じたし、限られた財源の中、市民との協働で、まだ抵抗勢力があるとはいえ、横串で出来た点は大きい。全庁的にコンセンサスが取れたのと市民に公開できたのは大きな前進である。前回までは主にハード面について、目標の数字も決めていかなければならなかったが、今回は萩原委員や田中委員のように、現場の声を吸い上げる力をもった委員に参加していただいております、より現場重視のソフト面を大事にして、ハード面との両輪で検討を進めていきたい。

委員：前回の検討委員会で、最適化計画のモニタリングをしたいと言ったが、今回実現したことに感謝している。全国的に、自治体のFMが進んできており、成果を上げている自治体が表彰を受けている。また機会があれば説明させていただきたい。今後は今までにない領域に入り、「作る」から「全体最適のマネジメント」への転換は大変な労力を要することである。私は認定ファシリティマネージャーとしてこの検討委員会の議論を進めていきたい。

委員：最適化計画の中身を読んで、書かれている内容は取組みのハードルが高いと思った。本委員会の役割の1つとして、事務局にはエールを送り続けたい。市の担当者は、市の施策を最適化するのに創意工夫で考える余地がたくさんあるということにやりがいを感じて取り組んでほしい。

委員長：エールを送っていただいたが、事務局は、原課からの憎まれ役にもなる。ただ、それは市民のためになるということなので前向きにとらえていただきたい。市民の後押しがなくてはできない。

委員：市民との合意形成に当たっては、「主体がどこになるのか」が重要になり、主体形成に市民を巻き込んでいかなければならない。指宿市の図書館では市民がNPOを作って、市民が主体となって運営しているといった事例もある。モニタリングにはハードとソフトそれぞれがある。例えば、図書館と道の駅ではあり方の指標も違うわけで、そういったところも踏まえて検討を進めていただきたい。

委員：以前、和歌山市で公民館大会があり参加した。そこでの話題が、公民館の数は最盛期の33,000施設から16,000施設までになるとの報告があった。ただ、過去の公民館数には、実態として公民館と言えないような施設も含まれているので、実際には、18,000施設が15,000弱位になったと見ている。高齢化で自動車の運転も困難になり、主要な公民館に行けなくなった人も多く、そういった人たちを、もう一度公民館へどのように呼び戻すかが課題になっている。公民館を使う立場から言うと、15圏域の中での公民館についてまだ市民のものになっていない。公民館を利用している方は個別に身近な公民館を使っているが、他の人と所有している意識があまりなく、今後その意識をどう醸成していくかが課題である。

委員：今回からの参加で、まだ議論の中身を知らないことも多いので、また教えていただきたい。和泉市の公共施設等総合管理計画策定委員会に出席しているが、まだ策定途中で、岸和田を参

考にさせてもらうところもある。中でも市民とどう進めていくかのプロセスを学びたい。

委員長：事務局としてはどう進めていくつもりなのか。

事務局：前回の検討委員会からの答申には付帯意見があり、それが今回への積み残しと考えている。その意見について引き続き取り組んでいきたい。付帯意見には、『実施可能なところから着実に推進させること』と『市民主体で考える仕組みが必要で、その方策を検討すること』と述べられていたので、この後、説明させていただく、進行管理シートなどで関係課からヒアリングし、アンテナを張り巡らせ、動きのある施設にはすぐに対処できるような、庁内連携を強めておきたいと考えている。また、15 圏域ごとで最適化を目指すことを記載しているが、圏域ごとで地域の事情が違うので、地域の特別な事情を吸い上げられるような手法をうまく組み合わせて、市民が主体となって考える土壌づくりに努めたいと考えている。

委員長：原課の職員は、真面目故に、自分の職場のことしか考えないところもあり、進行管理には部局をまたがって行うことが必要である。付帯意見に、実施可能なところから進めていくとあったが、どこかで現状を打破する良い事例があれば、庁内にも良い影響がでてくるだろう。

● 議事②「計画の進行管理について」
資料3、4-1、4-2に基づき事務局から説明

委員長：この進行管理シートは今回、進捗状況の把握のため、事務局から出していただいた。計画の取り組みが始まったばかりで、いきなり大きな効果が出ることは期待できない中、シートを見ていると施設、場所によっては、最適化への動きが始まりつつある。ただいまの説明に対して、意見等はあるか。

委員：進行管理シートは、庁内で他部局のものも見るができるのか。

事務局：公開資料なので、今後可能になる。また、庁内でフィードバックさせる時期は決まっていないが、庁内検討会議でも報告させてもらいたいと考えている。

委員：他の部署が、他の施策を進めていることが分かるというのは大きい。

委員長：市営住宅の集約建替えや福祉センターの合築といった、他の部局が合築や複合化の施策を知ること、原課にとって動機づけになる。ただ、施設によっては、計画の進行管理という主旨と外れるような記載も見受けられる。例えば NO.1 の幼稚園の趣旨を教えてください。3歳児受け入れとあるが、岸和田では幼保の連携は別となっているのか。「計画通りに進んでいる」となっているが、3歳児受け入れが果たして計画本来の目指す方向なのか、事務局はどう捉えているのか。

事務局：幼稚園全般に言えることだが、園児の数の減少で定員充足率が低いところが多い状態である。本来なら幼稚園の集約を考えるとところだが、3歳児の受け入れを拡大することで定員充足率も改善され、施設としての利用価値が上がることにつながり、最適化のひとつの成果ではないかと考えている。今回担当課からヒアリングを実施し、取り組みを聞いたが、施設の最適化のためには、総量削減策や業務改善の効果など、色々な方法があると感じた。施設の性能面やサービス面の充実も重要な観点になると考えその内容もこのシートに取りまとめさせてもらった。

委員長：地域が小規模化すれば、幼稚園や保育所、公民館などそれぞれ独立させておくのは難しくなる。そうなると、部局をこえて考えていかなければならないと思うが、何か公民館等での複合化の事例はあるか。やはり社会教育法等の規制で難しいのか。

委員：社会教育法自体は、実は広い解釈となっている。複合的なものも可能で、営利・宗教・政治目的以外は何でも利用できるが、市で利用方法を規制している事例が多い。ただ施設が古い場合はハード面の利用制限や改修も必要になる。

事務局：原課にヒアリングした中では、公民館の内規を緩和する検討をしているようで、利用方法を広く拡大する動きはある。

委員：資料４－２（２６の施設種類毎の進行管理シート）の活用方法の仕組みがあれば、教えていただきたい。

事務局：現段階で、全部の原課に進行管理シートを書いてもらい、ヒアリングすることに意義があると考えている。また、これを公開していくことで、原課にもフィードバックできる資料になる。

委員：この進行管理シート自体は悪くないが、行っている取組みだけ書いており、行っていない取組みについては書いておらず、これでは原課がどこまで考えて書いているかが解らない。最適化計画には、受益者負担、保全、総量圧縮、維持管理コストなどについて書いてあり、やはりそれらも意識してもらう必要がある。進行管理の為にチェックリストが必要ではないか。各課で行っている取組み・行っていない取組みを確認する項目や床面積や維持管理コストの数字についてどれだけ意識して取り組んでいるのかも必要。数値指標となる KPI（進行過程の業績評価）として、施設の床面積や維持管理コスト等の数値が経年でわかるようにすると良いのではないかな。

委員：今後のあり方で、指定管理や PFI とあるが、どちらが良いか考えることも、原課に任せきりではなく主体的に事務局が関わっていくべき。市民がサービス提供側として参画できる仕組みが必要。例えば内閣府のプラットフォームを使う等、市民、NPO、民間企業、原課が協議していけばいいのではないかな。そこで、指定管理がいいのか PFI か一緒に市民や企業、原課と合意形成していけばいいのではないかな。

事務局：庁内では、他課主導だが、指定管理を纏めて行う取組みも進めている。PFI は当事務局が主体となっている。ただし、まだ庁内連携がとれていないので、今後一緒に進めていかなければならないと考えている。

委員：この進行管理シートは所管課で作成されたものなのか。

事務局：そのとおりである。

委員：所管課自ら書いたということに意義がある。これをレベルアップさせるのに、チェックリストの次の段階で PDCA サイクルの観点から、チェックからアクションにつなげるべき。施設によって達成や未達成の部分もあるので、２６ある施設の進捗状況の順位や進められる事業の順番をつけてはどうか。

委員長：取組みを進めるにはインセンティブも必要。特に約 60%の面積を有する教育委員会が動かないことには、削減目標は達成できない。教育委員会の順位なども特別にヒアリングしても良いのではないかな。小学校の余裕教室を地域の為にどう使うのか、公民館的機能等色々考えられる。

委員：教育委員会で個別に学校の統廃合計画等はないのか。

事務局：そういった計画はない。子ども・子育て支援事業計画は策定している。

委員：極端に児童数が減っているところは、学校の統廃合をせざるを得ない状況になっている。学校の別の教育施設への転用は比較的スムーズだが、学校は建築するのに文部科学省の補助金を使っているのだから、保育所や老人施設などへの転用をするなら補助金の返金もありうる。そのあたりが躊躇する部分となっている。そういう意味で幼稚園は割とスムーズに進むかもしれない。また、学校は部外者が入ってくることには非常に敏感であり、部外者を入れないように学校のガードを固くしているところがあり、そこも躊躇する部分である。

委員：指定管理やPFIは協働という意味でわかるが、これまでどのように市民が参画してきたのか。パブコメの回答量はどうかだったのか。Kメンバーは良い取組みだと思ったが、個々の市民団体に計画をコミットするために今後どう考えているのか。

事務局：岸和田市公共施設のあり方に関する基本方針を策定する際に、パブコメは約400件あった。ただし、個別施設に対する意見が多かった。

委員：学校は数が多くなかなか減らず、また現場には削減のインセンティブもない。現場にとって余裕教室の活用というと、教育の中での活用という風にしかない。であれば、例えば余裕教室を公共施設マネジメント課の管理の範囲に入れて、利活用の方法を考えてはどうか。

事務局：ヒアリングでも若干教育委員会の意識が変わってきている感じを受けたが、まだ時間がかかる。余裕教室等見受けられるが、教育委員会の中だけで考えているところがある。

委員長：全庁的にマネジメントを考える必要がある。教育委員会にも建築職がいるはずで、維持管理費を4割減らせと言え、それなりに考えるはずである。教育委員会に建築職にファシリティマネジメントの意識付けをすべきである。首長からの指示がベストだが、建築職との合意形成をとっていくべき。

委員：FM大賞のような、各課の優れた取組みに対しては、岸和田市版の表彰制度を作ってはどうか。原課サイドで自分たちの取組みは良いことをしていると思ってもらいたい。

委員長：教育は大事だが、教育委員会の予算だけが未来永劫削減されないまま続くことはないので限られた予算の中で何をどうするか真剣に考えなければならない。先ほど委員から住民参画について意見が出されたが、やはり圏域ごとで住民とともに具体的に考えていくべきである。15圏域の再配置について住民参加型で進めるにはどうするか、次の議事に移り、ご意見いただきたい。

● 議事③「15圏域の再配置検討について」
資料5、6-1、6-2に基づき事務局から説明

委員長：ただいまの説明に対して、意見等はあるか。

委員：最近30・40代の人で、まちづくりの起業家が多い。まちづくり市民懇話会はどういった方が参加しているのか。

事務局：登録メンバーは31名で、主な目的は市の総合計画の進捗を議論している。事務局の持ち込みテーマで開催した日は、11名が参加し、30代40代は数名、男女比は同じ位であった。

委員：一方で30代等は、自分たちでまちづくりを進めている人もいるはずで、市に関わらずに自分たちで活動している。そういう人たちをどう巻き込むのが大切である。20代、30代というこれからの人たちが考える必要がある。しかし、そういう人たちは行政がお膳立てをしたような場には集まらないことが多い。地域の中に入り込んでみないと分からないことが多いので、一概には言えないが、例えば、学習指導要領の改正で、地域と連携しながら教育を行うアクティブラーニングが導入されたが、先生も何をしたらよいかわかっている。志のある校長や先生のネットワークができればよいのではないかと。

事務局：確かに若い人の参画が課題である。

委員長：若い人もそうだが、子育て世代もネットワークが広いので、そういった人たちを引っ張ってくる仕組み作りを考えてみてはどうか。

委員：自分たちのやりたいことを自分たちでする人達が増えてきており、そういった人達を巻き込む必要がある。まちカフェでは、自分たちに何が出来るかアイデアを出し合う。こういう人たちは、対話（ダイアログ）をしているのであって、決して討議・会議の場には来ない。合

意形成の場も必要だが、そうでない場もあるので、そことどうつないでいくかが課題となっている。

委員：今の話を受けて、公民館においても公民館自体に出来ない世代が集まる場というのがある。公民館とは別の拠点の場があり、そことどうつながるかがよく課題になっている。また、どれだけ圏域の可視化ができるかが必要だと考える。可視化するとイメージしやすい。圏域の意識がみんなにどれだけ浸透させるかはとても重要で、例えばこれから岸和田市がつくる地図には必ずこの圏域が入っていたり、15色に色分けしたり、自分の住んでいるところはこの圏域だなと分かってもらえたりすると、意識してもらえるのではないかな。意識が出てくると施設の統合にも目が向いていくと思う。最初は圏域を共通認識させるきっかけとなるイベント等が必要ではないかと思う。また、教育施設統合のインセンティブは、教育のためになるということが大変重要である。例えば余裕教室を開放し高齢者を入れたら、高齢者と子どもたちが触れ合って楽しく授業ができ教育効果が出ることや、市民ボランティアの人が学校の行事やクラブ活動等の大変な時期に手伝ってもらったりできるといったことが考えられる。そういった事例をあげていかないと、教育委員会は動かない。学校に人が入ってもらえた方がより良くなったというインセンティブが有効だと考える。

委員：志も大事だが、地元でお金が回る仕組みが必要。プラットフォームもあり、官民連携するなら、行政、民間ともにwinwinの仕組みを作るべき。

委員長：既存施設の有効活用の事例としては全国いくつかあり、熊本県の『地域の縁側プロジェクト』や滋賀県の『老いも若きも』という地域住民の居場所づくりの取組みなどがある。既存資源を有効利用するには、横断的にインセンティブ、そして地域の中にキーパーソンがいると割とうまくいく。

委員：ワークショップをするのは良いが、圏域単位に意見を聴いたとして、市の受け止め方をどうするか考えて、施設ごとの進行管理に繋げる仕組みの道筋を立てて進めないといけない。今回、市は圏域ごとに実施計画を作る予定は無く、最適化は施設ごと・所管ごとに進めていく事はワークショップに参加するメンバーにも理解しておいてもらう必要がある。

● 議事④「その他」について
事務局から提案

事務局：本日配布したお手元の資料より、15圏域ごとの施設再配置の取組みについては、地域住民と共同で議論することが大切ということで、今年度は第2圏域である春木駅周辺でのワークショップを予定している。せっかくなので、本委員会とも連携して取組みたいと考える。本委員会の開催と並行して行うワークショップでの提案を、単なる成果物としてとどめるのではなく、提案自体を本委員会にフィードバックさせて本委員会でも議論していきたい。ワークショップの目的は、地域内の多様で自由な発想で意見をいただくことを重視しているので、本委員会から正式に依頼し、ワークショップから提言をもらうといった形までは取らない方法で考えている。現時点では、15圏域全てでワークショップを実施するかは未定だが、次年度以降も圏域内での検討を進めていくことから、本日、本提案を承認いただけたら、これから実施するワークショップをこの委員会で議論する題材として取り扱いたいと思う。あと、今回の第2圏域のワークショップには、本委員会とのスムーズなやり取りを担保したいことから、江口委員に関わっていただくことになった。提案は以上。

委員長：ただいま事務局から提案があった。委員の皆さまこれについて異議はないか。

全委員：（なし）

委員長：異議はないようなので、事務局はそうに進めていただくよう、よろしく願いしたい。それでは、本日の議事を終了する。

事務局：次回の委員会の開催については、来年の3月頃を予定している。詳細については後日、開催

通知にてお知らせする。以上をもって、平成 28 年度第 1 回公共施設マネジメント検討委員会を閉会する。

部 長：第 1 回の委員会の閉会に当たりまして、一言お礼を申し上げます。本日は、長時間にわたり、活発なご議論とともに、貴重なご意見を多数頂戴し、ありがとうございました。また、委員長には議事進行を賜りまして、併せてお礼申し上げます。今後も、市民の皆様や多くの方々から意見を頂く中で、新たな課題が生じることや、厳しいご意見をいただくことも予想されますが、将来にわたり持続可能な行財政運営を実現するために、全庁一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中で、この委員会での議論をお願いすることとなりますが、多大なるご尽力をお願い申し上げ、閉会に当たりましてのお礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

以 上

－ 以下余白 －